



ズワイガニ（北海道西部系群）①

ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本系群はこのうち北海道西部日本海に分布する群である。本系群の漁獲量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。



図1 分布域

本資源では積丹海山群、忍路海山、および武蔵堆斜面域に漁場が形成される。

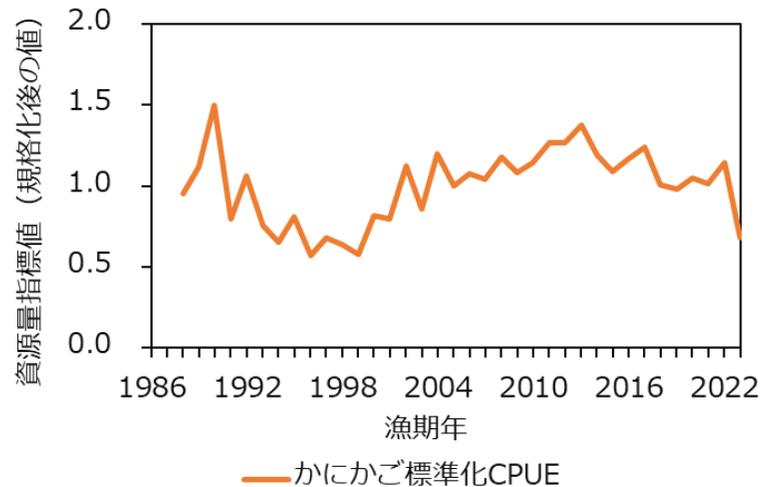
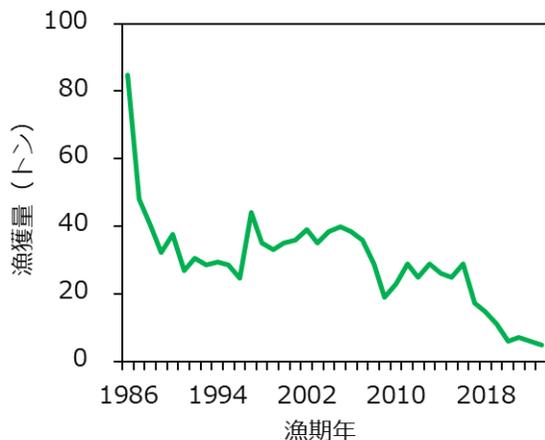


図2 漁獲量の推移



主にずわいがにかご漁業（かにかご漁業）で漁獲され、現在は3隻が、かにかご漁業の知事許可を得ている。漁獲量は、1986年漁期は80トンを超えていたが、その後減少し、1988～2016年漁期以降は20～40トン程度で推移した。その後さらに減少し、2023年漁期は5トン（かにかご漁業：5トン、その他刺網等：0トン）であった。

図3 資源量指標値の推移

かにかご標準化CPUE（資源量指標値）は、1980年代末から1990年代後半にかけて低下した後は上昇して、現在は比較的高い水準を維持している。2023年漁期は操業が不安定であったため、近年では低い値となった。

ズワイガニ（北海道西部系群）②

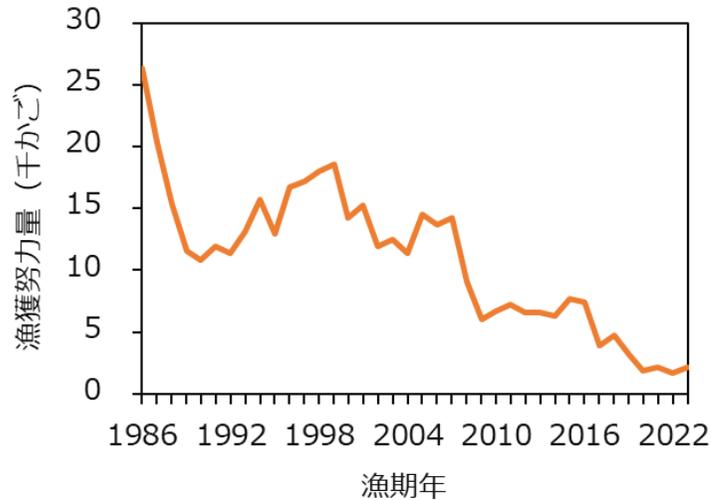


図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は2000～2008年漁期には9千～15千かご程度で横ばいであったが、2009年漁期以降は6千～8千かごと少なく、2017～2023年漁期には荒天の影響もあり、2千～5千かごとさらに減少した。

本資源の漁獲シナリオについて

本資源の資源量指標値は、かにかご漁船の主対象であるベニズワイガニの漁獲状況や、ズワイガニの単価、かごの沈設日数など、CPUEに影響する要因を考慮できず、最大持続生産量に関する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることは困難である。

本資源の漁獲シナリオでは、1997年漁期以降の資源水準を維持するよう漁獲を管理し、資源管理の目標の達成状況を踏まえ、必要に応じてこれを見直すこととされている。

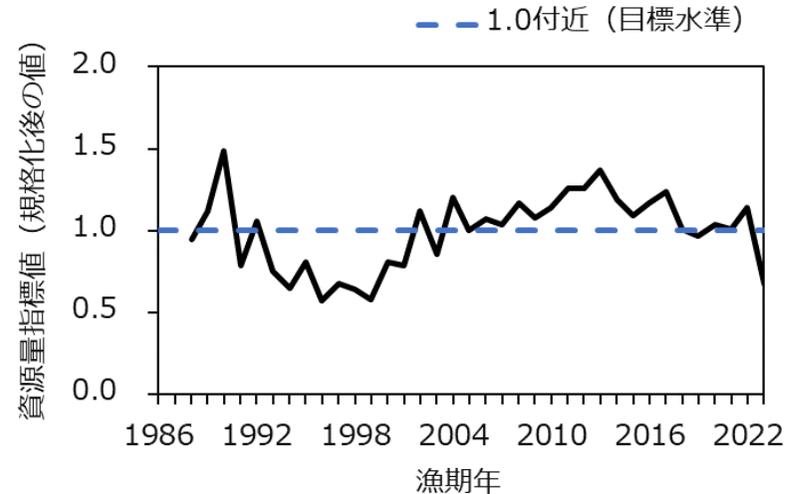


図5 資源量指標値と目標とされる水準

本資源の漁獲シナリオでは、1997年漁期以降の資源水準を維持するよう漁獲を管理することとされ、維持または回復させるべき目標は、資源量指標値が1988～2019年漁期の平均である1.0付近であることとされている。2023年漁期の資源量指標値(0.68)は、当年漁期の操業が不安定であったため、この目標を下回った。ただし、中長期的に見て、近年は比較的高い資源水準が維持されていると考えられる。